

森林総合研究所プレスリリース

ホームページに掲載したプレスリリースをご紹介します。詳しくお知らせになりたい方は、下記案内より当所ホームページをご覧ください。

●2018年9月28日掲載

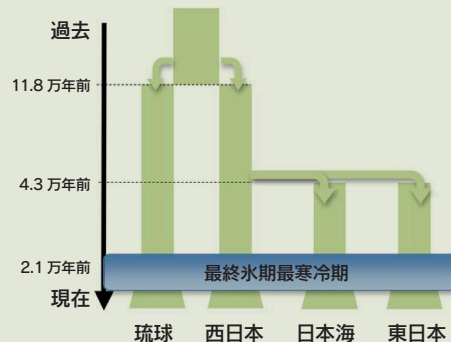
日本の常緑広葉樹は最終氷期をどこで生き延びたのかー遺伝的多様性の保全のための新しい根拠ー

常緑広葉樹林は、日本の温暖地を占める主要な森林ですが、最終氷期の最寒冷期をどのように生き延びたのでしょうか。これまで「南西日本の太平洋側に待避し、そこから分布を広げた」とあるいは「各地に生き残った小集団から分布を広げた」となどの仮説が検討されてきました。

今回、常緑広葉樹のスタジイについて遺伝的多様性を解析し、複数のモデルを構築して検討した結果、最寒冷期に少なくとも琉球、西日本、日本海、東日本の4地域で生き延びたことを強く示唆しました。また、それらの成立時期を推定すると、最終氷期最寒冷期前に既に成立していました。つまりスタジイは、各地域で独自に最終氷期を生き延び、氷期後暖かくなるにつれて個体数を増やして分布を広げたと考えられます。



スタジイ



このことから、それぞれの地域には長い年月を通して形成された個体群が存在し、地域に特徴的な遺伝的組成をもっていると考えられます。気候変動に伴う長い歴史の結果形成された遺伝的多様性の保全の根拠となる研究です。

●2018年10月23日掲載

木材の成分を用いた自動車内外装部品の実車搭載試験を開始ー改質リグニンを利用した材料の実用化へー

リグニンは、木材成分の約3割を占める主要成分のひとつで、耐熱性、難燃性などを発揮する優れた材料として期待されています。

森林総合研究所、産業技術総合研究所（株）宮城化成（株）光岡自動車の研究グループは、日本固有の樹種である「スギ」のリグニンの均一性に注目し、スギ由来の機能性リグニン素材の研究・開発を共同で進めてきました。改質リグニンを樹脂成分として用いたガラス繊維強化プラスチック（GFRP）の開発と製造プロ

セスの確立に取り組み、現在、製品化への試作段階を迎えています。

10月より、GFRPを用いた自動車内外装部品を実車に取り付けて評価する試験を開始しました。今後1年程度をかけて紫外線、温度変化などによる自動車内外装部品の変化をモニターし、長期間の実用に耐えるかを確認します。

改質リグニンの生産開始が予定される2022年に、改質リグニンによるGFRP製自動車部品を使った環境にやさしい自動車のブランド化をめざしています。



森林総合研究所研究報告

▼論文

「栓皮」、屋根葺き材としてのヒノキ (Chamaecyparis obtusa) の樹皮における樹脂道 (英文)

藤井 智之、大住 克博、窪野 高徳

▼短報

木質バイオマス発電所燃焼灰の若齢ヒノキ林への施用試験

大谷 達也、酒井 寿夫

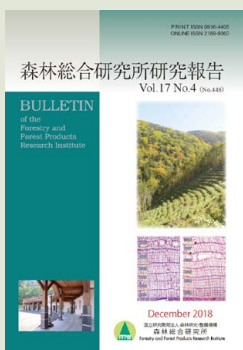
▼研究資料

台風攪乱を伴った壮齢コジイ二次林の地上部純一次生産量の変動

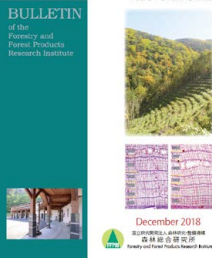
佐藤 保、齋藤 哲、荒木 眞岳

桂不動谷津流域における2001、2014年の降水と溪流水の水質

小林 政広、吉永 秀一郎、伊藤 優子、篠宮 佳樹、相澤 州平、岡本 透、釣田 竜也



森林総合研究所研究報告
Vol.17 No.4 (通巻448号)



森林総合研究所研究報告▶
Vol.17 No.4 (通巻448号)
2018年12月
<https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/bulletin/index.html>

次号の特集

次号45号の特集は、「森を広く長くみる」と題し、樹木の知られざる生態や、植物と動物との関わり(生物間相互作用)などを、森林の長期観測によって解き明かしていく研究について紹介します。

対談は、見上げる視点で木の枝から空

へと広がる空間を独自の感性で捉え、描きつけてきた画家の日高理恵子さんと、樹冠のギャップダイナミクスから、森林の動態を探りつけてきた田中浩研究担当理事に森の中で語りあって頂きます。

プレスリリース等の最新情報はこちらからー

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/topics/index.html>

お問い合わせ

森林総合研究所
企画部 広報普及科 広報係
TEL 029-829-8372
Email kouho@ffpri.affrc.go.jp

